

「自立」「共生」「貢献」

福生市立福生第一中学校

福生市熊川845
電話 042 (551) 0321
FAX 042 (530) 7447



一中だより

2月号

令和7年2月3日発行

福生一中ホームページ <https://fussa-1j.hs.fussa.school/>

学校の日々の様子をブログにて紹介しています。



「不便でよかった。」と感じたことはないだろうか。

校長 金子 敏治

上のタイトルは、1年生の国語の授業で扱われていた教科書「『不便』の価値を見つめなおす」の冒頭の一文です。話の主な内容は次のようになります。

便利さを追求する世の中で、あえて不便に目を向け不便から得られるよさである「不便益」が、今、注目され始めています。「便利」は手間をはぶき、生活を豊かにしますが、一方で考える機会を奪い、達成感や喜びを失う可能性もあります。「不便」は手間がかかるものですが、新たな発見や出会い、身体能力の維持など、便利さだけでは得られない価値を生み出すことがあります。例えば、タクシーでの移動は楽ですが、徒歩では新しいお店などを発見できることもあります。介護施設では、あえて階段を設けることで入居者の身体能力の維持につながっている所もあります。このように、「不便益」は便利さを否定するのではなく、不便さの中に隠された新しい価値を見出し、生活や社会をより豊かにするための考え方です。

1月には、1年生がスキー移動教室を行いました。生徒は、2泊3日間、様々な「不便さ」を感じたことでしょう。普段、便利に使っているiPadや携帯電話がないため、好きな動画を見たり、ゲームをしたり、友達とメッセージを送り合ったりして楽しむことはできません。しかし、その代わりに、スキー実習では、みんなで声をかけ助け合いながら取り組み、夜のレクリエーションでは、協力し合いながら楽しみました。ゲームのミッションを達成した時は、みんなで大喜びし、拍手し合う姿はとても微笑ましく感じました。さらに、インストラクターに感謝のカードを作成する時は、学びの多様な学校7組や特別支援学級8・9組と通常学級の生徒たちが一緒に活動する姿を通して、お互いを理解し、協力し合う姿勢が確実に育っていると実感しました。2年生は、校外学習で都内班行動を行いました。電車の中で、電子機器を使う代わりに、班のメンバーでの会話や電車から見える景色を楽しみました。また、駅の改札口や道を間違えるなどの様々な失敗もありましたが、班員と相談し合いながら問題を解決することができました。生徒は、行事を通して不便さや失敗の中から新たな視点や学びをもつことができたと思います。

この「不便益」という考え方は、日々の生活の中でもよく直面します。「不便で嫌だな」「面倒くさいな」と思って避けたい物事の中に、実は新しい気づきや楽しみが隠れていたり、物事の真実や本質があったりします。その時は遠回りをし、ベストな方法だとは思えなかったとしても、ずっと後になってこの方法でよかったと思うこともあります。これまでの常識とは別の視点をもつことで、人々が直接交流し、関係性を作ることができたり、世界をもっと多様に見ることができたりします。不便さを選択することが時には大切だと改めて考えました。

※原作の紹介「不便益のススメ」川上浩司著 岩波ジュニア新書